

【月刊】キリスト教書評誌

# 本のひろば

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター  
1957年7月17日第三種郵便物認可  
2020年7月1日発行(毎月一回発行)第751号

July 7  
2020

● 出会い・本・人

本と旅して 松村さおり

● 特集「ヴィジュアル表現にみるキリスト教」に触れるなら

この三冊! 三輪義也

● 本・批評と紹介

片柳弘史著 あなたはわたしの愛する子 久米小百合

稲 正樹、中村睦男、水島朝穂編

平和憲法とともに 笹川紀勝

ジェイムズ・H・コーン著／榎本 空訳

誰にも言わないと言ったけれど 山下壮起

カンバールランド長老キリスト教会高座教会編

イエスを見つめながら 戒能信生

芦名定道著 現代神学の冒険 小原克博

越川弘英著 キリスト教史の学び(上) 落合建仁

新免 貢著 「新」キリスト教入門(2) 岩村義雄

デニス・アレクサンダー著／小山清孝訳 創造か進化か 関野祐二

西谷幸介著 母子の情愛 間瀬啓允

川口葉子、山口陽一著 知られなかった信仰者たち 辻 直人

ヘンリ・ナウエン著／嶋本 操監修、河田正雄訳、酒井陽介解説

今日のパン、明日の糧 吉川直美

近刊情報

書店案内

# イエスの福音

それは本当は何だったのか

ジェイムズ・M・ロビンソン 著 / 加山久夫、中野実 訳

6月22日

Q資料やトマス等「言葉福音書」から、ガリラヤでイエスが語った本  
来の福音に迫る。付言葉福音書Q本文。◆四六判変型・本体3500円

# キリスト教史 下巻 増補新版

宗教改革から現代まで J・ゴンサレス 著 / 石田学、岩橋常久 訳

定評ある通史の増補新版が待望の邦訳！ 2010年の原書・増補新  
版では2章の追加と改訂がなされた。◆A5判・本体5900円

# 現代のバベルの塔

反オリンピック・反万博

新教出版社編集部編 東京オリピック、大阪万博、さようなら！

寄稿者 有住航・いちむらみさこ・酒井隆史・入江公康・塚原東吾・  
田中東子・坂井めぐみ・井谷聡子・白石嘉治 ◆四六判・本体2000円

# 誰にも言わないと言ったけれど

黒人神学と私

ジェイムズ・H・コーン / 榎本空訳

黒人神学の先駆者が自らの神学形成の道程を生き生きと綴った思想的  
自伝。黒人民衆の経験と先人の苦闘が甦る。◆四六判・本体3000円

# 逆風に抗して

ドロテー・ゼレ回想録

ドロテー・ゼレ 著 / 三鼓秋子 訳

戦後神学界を鋭い異議申し立てによって震撼させ続  
けた不屈の女性神学者。◆四六判・本体2900円



## 正義と法

キリスト教法倫理の基本線

大反響

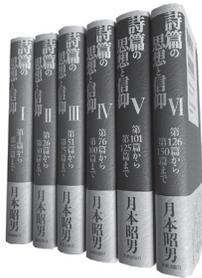
ヴォルフガング・フーバー 著 / 宮田光雄 監修 / 佐藤司郎、木部尚志、小嶋大造 訳

正しい法とは何か、法と倫理、正義と法はどう関係するのか。法の神学的基礎を探り、  
人権を最重要価値として複雑な現代世界における法治国家のあるべき姿を論じた大  
著。著者はキリスト教社会倫理の泰斗、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導  
的神学者として活躍した。待望の邦訳。◆A5判・本体9500円

## 詩篇の思想と信仰 全6巻完結!

月本昭男 厳密な試訳、詳細な語釈、各詩の構造と成り立ち  
の分析、そして思想と信仰について、深く行き届いた解説。

I	1 篇 - 25 篇	本体 3200 円	IV	76 篇 - 100 篇	本体 3200 円
II	26 篇 - 50 篇	本体 3800 円	V	101 篇 - 125 篇	本体 3900 円
III	51 篇 - 75 篇	本体 3300 円	VI	126 篇 - 150 篇	本体 3400 円





## 本と旅して

—— 松村さおり

旅先で偶然手にした本から知る世界がある。

昨秋、沖縄愛楽園交流会館を訪れた。国立療養所沖縄愛楽園にあるこの施設は、ハンセン病に対する正しい知識を広めるとともに、強制隔離政策の歴史を伝えるために建てられた。施設の本棚を巡るうちに『野の草』という歌集に目がとまった。

師の好む 白きバラはも 今朝咲きて

露ふふめるを 二本切りぬ

詠み手は井藤道子。看護師として鹿児島にある星塚敬愛園で働いていた。師とは彼女が慕い続けていた矢内原忠雄だ。彼女は幼子のような信仰の持ち主で、罪の苦しみをなかなか理解できないでいた。ただ主イエスを愛し、従うだけではどうしていけないのか、と。しかし、矢内原と交わっていた手紙と、その頃幼い患者を亡くしたことを通して、戦時体制を唯々諸々と受け入れてきた自らが最も罪深いと

知った。そして彼女は、鹿児島から単身上京を決意。当時の大臣近衛文麿に戦争終結を直訴に行く。彼女の真つ直ぐな信仰は苛烈ですらある。

戦後、帰郷を望む患者と共に沖縄に渡り、愛楽園で六年間働いた。建物は爆撃によって壊され、薬や包帯といった医療品は全く足りない。食料さえ乏しいなかで、彼女は弱っていく人々に向き合わねばならなかった。主がここにいてくださったら、と何度願っただろうか。

図書室からは海が見える。歌にあるいじらしいほどの喜びは、主イエスを迎える喜びにも重なる。主の訪れを切に待つ人がここに生きていたのだ。海に面した窓ガラスは曇っている。海水をたつぷり含んだ雨が吹きつけ、塩の跡が白く残るせいだ。その霞の向こうで主の小舟がゆれているような気がした。 井藤道子著『歌集 野の草 明日香叢書 第121篇』野の花通信社、一九九四年

(まつむら・さおり) 日本基督教団軽井沢教会牧師、愛和病院チャプレン



# 「ヴィジュアル表現にみるキリスト教」に触れるなら ▼この三冊！

## 三輪義也

(みわ・よしや・アートディレクター、イラストレーター)

新型コロナウイルスの影響により、これまで「平常」とされていた生活のあらゆる面で変化が余儀なくされています。それは当然芸術の分野しかりで、開催中であった展覧会は再開見込みのないまま軒並み中止、予定されていた大小さまざまな企画展も例外なく中止もしくは延期か、開催があやぶまれています。こんな機会に、過去に訪れた展覧会で購入したものの書棚で眠っている厚めの図録などを手に取り、追想とともに再度鑑賞に浸るのもよいかも

しれません。

本は、いつも私たちの近くにあり、心を踊らせ、揺さぶり、さまざまな感情や思考に深く深く関わり、ときに芸術への扉を開く誘導センサのような働きをします。個人的にはグラフィックデザインという仕事柄、書籍の装幀、デザインに携わりながら、読書という目的で本を手にとることの少ないことを省みつつ、ヴィジュアル的な観点から、親子で、家族で、もちろん一人でも楽しめる本を、お分かちしたいと思

います。

ガブリエル・バンサン『たまご』

一冊目は絵本です。作者のバンサンはベルギーの絵本作家で、二〇〇〇年に七二歳で他界するまでに彼女が残した作品は、すべて圧倒的な画力のデッサンで満ちています。

この『たまご』には、タイトル以外に文字は存在しません。その意味ではまさに「絵本」であるといえますが、いわゆるまだ文字も読めない子どもたちのための絵本というのとは少し違う性格のものです。

物語は、何もない広大な平地にひとりの人が巨大な卵を発見するところから始まります。その卵は、たちまち人類の興味の的となり、野次馬が大挙して押しかけ、周囲には街がつけられ、見世物と化します。そこに天変地異が起り、街は壊滅状態、卵の親鳥と思しき巨鳥が飛来すると、人々はパニック

ク状態で逃げ惑いますが、親鳥がそこを離れ、やがて卵から雛がかえると、新たな恐怖心か親鳥への復讐心からか、その無力な雛を軍事の力を借りて惨殺、さらに見せしめとするかのように、その死骸を磔にします。

この展開に読者は少なからず心を乱され、作者の意図を読み取ろうと最後の頁の手前で立ち止まってしまうかもしれません。そして読後には、バンサンはこの物語にピリオドを打っていないことに気づかされます。答えは読者に委ねられています。

この絵本を選択した時点では、コロナの感染拡大がここまでになるとは想像もしていませんでしたが、木炭だけでなく力強く描かれたこの物語には、奇しくも新型肺炎のもたらす教訓や聖書の「ひとりの人によって罪（死）が全人類に広がった」という意のことばが透かしてみえるようです。かつてイ

エスを十字架につけた人の罪の有り様が、二千年を経てもなお変わっていないことを思わされるのは私だけではないでしょう。いま時間のあるときに、この本を味わう意義を感じつつ、お薦めします。

バンサンの処女作『アンジュール——ある犬の物語』も、一匹の飼い犬が棄てられることから、生きることの孤独や人間社会の歪み、そして赦し、和解へと導かれる過程が描かれており、心が強く揺さぶられます。こちらもやはり文字のない絵本です。

字がないということでは、安野光雅による『旅の絵本』（福音館書店）の一連のシリーズもまた自粛生活には最適な友となりえます。七〇年代後半から八〇年代にかけて出版以来版を重ねるロングセラーです。この連作には、作者特有のユーモアが微に入り細に入り暗号のように組み込まれ、旅をしな

がら、風景とともに、謎解きを進めてゆく楽しみがあります。二作目の『旅の絵本II』には、新約聖書のイエス・キリストの生涯が各所に配置されています。

これら字のない絵本の楽しみ方に、絵そのものを味わうこと以外に、開くたびに違ったことば（台詞）が浮かんでくるということがあります。いわば、物語は読み手次第でもあり、また試されてもいる、そして子どもたちには自由なことば選びとストーリーづくりの場ともなりえるでしょう。

桃井和馬『和解への祈り』

この本は、装幀の写真とデザインが印象的な一冊です。A5判とサイズが小さいのは惜しい気もしますが、手に取りやすく読みやすいというコンセプトがていねいな本づくりからも伝わります。また、タイトルからもわかるように、全編に静かな空気が流れていま



### 『たまご』

ガブリエル・パンサン：作・絵  
BL出版  
1986年刊  
19×46cm 43頁  
1300円(税別)

近代の作品も多く取り扱われ、『聖書』をより身近に読める画集のようなヴィジュアル聖書です。  
バイブル・アンド・アートミニストリーズ(B&A)という美術宣教団体の代表町田俊之氏監修のもと、装幀と本



### 『和解への祈り』

桃井和馬：写真・文  
日本キリスト教団出版局  
2018年刊  
A5判横96頁  
2000円(税別)

文のデザインを筆者が担当しました。二五〇頁にわたる流れのあるレイアウト作業は決して易しくはありませんでしたが、大きなチャレンジであり、果実を得ることもできました。  
いくつかの展覧会で、あるいは旅先で



### 『アートバイブルII』

日本聖書協会  
2008年刊  
A5変型判256頁  
3000円(税別)

観た名画との再会もあると思います。また、今後予定する旅のガイドブックとしても役立ちます。アートに親しみつつ、みことは楽しく読んでいただけたら、それ以上の喜びはありません。

す。そつと押されたシャッターとファインダー越しに写っているのは、まぎれもなく著者と被写体双方の祈りです。  
著者は若い頃に、友人たちのいのちにかかわる出来事に直面し、祈りを重ねた結果、キリスト者になる決心や、自分の罪に対する問いかけを迫られるという経験をしています。それが写真家として世界へと駆り出されるきっかけとなったということです。

キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、もともと血のつながった者同士、近すぎるゆえに反目しあう関係を見据えながら、著者は現地に足を運び、当人たちと交わることで、私たちがなかなか知りえない、互いに支え合って生きていく現状、それが一時的なものではなく、長い時間をかけて培われてきた歴史の一部であることを伝えていきます。  
現代は「不寛容な時代」と言われます。日常の些細なことから、民族の対

立、地域の紛争、さらには国家間の競争や戦争など、大小さまざまな火種があります。ことに9・11以降、残念ながら信仰そのものが不寛容を生み出すと考える人が増えたかもしれません。著者は、エルサレム、イスタンブール、イラク、レバノン、エジプトなどを巡りながら、目に留まらないほど小さな寛容を見つめ、それらを「和解」ということばに集約し、共生と祈りを重ねる努力に光を当てているのです。

「死が当たり前のように、生の延長上にある町。生が死と隣り合わせにあることを日々感じ続ける場所。ここは人々に祈りが必要な場所だ(エジプト・カイロ)。」という一節には、自分の現在の立ち位置を再確認させられます。とくに現代の日本人は死を忌む意識が強いような気がしますが、多くの自然災害が毎年のように発生し、そしていまコロナウイルスの脅威が席卷するな

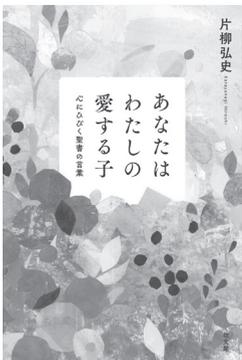
か、生命の危険と隣り合う状況に突然置かれたような私たちが、どのように死と生に向かい合うべきなのか、また隣人に対してどうあるべきかなど、おそらく遠い昔からの課題であり続けていることに、真剣に取り組むよう問うているようです。

いま、私たちは「非日常」の時間の中に生きています。それが現実です。そこから再び「日常」に戻ることができるとか、あるいは現状を抱えつつどのような生活を継続してゆくことになるのか。今後の世界のあり方のヒントをこの本にみつけることができるかもしれません。

日本聖書協会『アートバイブルII』  
「聖書が見える、絵画が読める。」というキャッチコピーのもと、名画とその元となるみことはが一体となった『アートバイブル』に続いて発刊された第二弾。第一弾よりも、シャガールなどの

## 神さまのお見合いに 招かれていたような

〈評者〉久米小百合



あなたはわたしの愛する子  
心にひびく聖書の言葉  
片柳弘史著

「聖書を読んでみたいのだけれど、なんか難しそうだし、今時珍しいくらい分厚いし、気軽に読むにはカタカナの名前や地名が多すぎて意味不明、なんか良い手引書はないですか？」これまで幾度となく訊かれた質問です。特に新型コロナウイルスの蔓延やそれに伴う経済的な困難で全世界が先行き不透明な今日、何か揺り動かされない人生の柱のようなことば、逆境の最中でも励ましと安心を与えてくれる生きたことばを求めている方が増えています。そんな方々に最高のバイブルエッセイが片柳神父様のブログから生まれました。聖書についての解説書やキリスト教神学についての指南書にありがちな専門用語は一切出てきません。もともと神父様のブログから発信された言葉なので、私たち不特定多数の読み手に向かって語りかけられています。おまけに一つのトピックはたった3ページ！ 聖書の言葉と神

父様のメッセージは4〜5分もあれば読めてしまう優れものです。ご自宅で、病院や役所の待合室で、1日の隙間時間に読めるサイズ感ではないでしょうか。

実はこのご本を手にとって最初のページをめくった時、なんだかこれから神さまとお見合いに招かれているような初々しい気持ちになりました。仲人は神父様と言ったら叱られるでしょうか、世間のお見合いではあり得ないことですが、お相手の方はとても誠実で既にあなただけのことを心から愛しておられるんですよ、この人に安心してついて行つて良いんですよ、どうですか、素敵な方でしょうかと神父様が紹介してくださるのが神さまです。写真や履歴書の代わりに聖書の言葉がこの方のシルエットを浮かび上がらせてくれるのです。優しいお顔もあれば凛々しく厳しい表情もあります。クリスチャンの方にはこれまで何度も目に

した読み慣れた聖句かもしれませんが、しかし聖書研究のテキストとして活字を追っただけでは気付けないキリストの微笑みや囁きが聞こえてくるのが不思議です。またキリスト信徒ではない方には、聖書の神さまってこんな方だったの、こんな風に私と人生を共にしてくれる方だったの、難しい人じゃないみたいと親しみを覚えられるのではないのでしょうか。

そんな風にこのご本では少しずつ神さまの魅力が紹介されていきます。それは神の愛が解き明かされていくことでもあります。でも神さまだけじゃありません、私やあなたも、そして私たちの周りにいる気の合う仲間、ちよつとノリが違うあの人の人もみんな愛されていると気付かされます。つまらない競争心や嫉妬心、無意味なワンランク上

を目指す必要がないことも、たくさん聖書の言葉を引用しながら語られます。神父様もおっしゃるように聖書はラブレター、つまり「愛」です。愛？ これまで何度耳にしたことでしょうか、歌の文句や小説のタイトルで使い古され、「愛」なんて聞いただけで嘘っぽいと煙たがられるでしょうか。でもこの愛によらなければ癒されない傷やわだかまり、心配や不安は遠ざからないのです。信じるのは難しいことでしょうか、いいえ、神父様から朗報です！ 誰でも自分の心をうまく使い平安に生きる為の【心の取扱説明書】を持っているそうなんです。どうぞこの続きはぜひご本を読んで確かめてください。

(くめ・さゆり||ミュージックミッシヨナリー)  
(B 6変形判・一八〇頁・本体一〇〇〇円+税・教文館)

## 神学ダイジェスト128号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2020年6月発行  
A5判120頁  
定価640円(税込)

六月一日発行予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に協力するため、販売および発送を留保させていただいております

### 特集 創造と科学

巻頭エッセイ 科学を通して少しも神を理解できるか 三田一郎  
霊性、進化、創造者なる神 R・ヘイト  
エコロジーと自然の神学 L・ポフ/M・ハサウェイ  
創造と新創造 C・ティーン||ドラモンド  
私は思ったより大丈夫 ホン ソンナム  
核軍縮の出発点としての核兵器非合法化 ドイツ正義と平和委員会

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

## 戦争放棄の歴史的意義

〔評者〕 笹川紀勝

## 平和憲法と ともに

深瀬忠一の人と学問  
中村睦男  
水島朝穂

平和憲法とともに  
深瀬忠一の人と学問  
稲 正樹、中村睦男、水島朝穂編

深瀬忠一は憲法の平和主義を論じて日本社会に大きく貢献しました。彼を敬愛する方々が本書を出版され、その姿と声を想い出し懐かしさがこみ上げてきます。

では、読者は本書をどう読めばいいですか。本書は三部構成からなります。第一部は深瀬の憲法学を知りたい方向きです。第二部は深瀬が心血を注いだ憲法裁判で平和的生存権を実現する運動を知りたい方向きです。第三部はキリスト者であった深瀬のイザヤ、エレミヤ、エゼキエルの平和思想を表わす信仰を知りたい方向きです。読者は自分の関心から三部構成の順序にこだわらずどこから読んでもいいでしょう。以下私の読み方で本書を紹介しますのでご参照ください。

深瀬は、長宗我部の家臣団郷土の子孫で誠実な陸軍中佐の父一彦の長男として高知県に生れ、少年時代から青年期

です。東京では、深瀬は旧約学者浅野順一牧師の美竹教会で洗礼を受け、神の栄光を表わす生き方を決心します。こうして、学問と信仰を深める中で平和的生存権論を提起し、深瀬は、自分は絶対平和主義者であり、戦争放棄した憲法第九条を一国を超えて普遍的に妥当する自然法であると確信します。

深瀬憲法学の特徴をひとつだけ、読者のために述べます。それは、憲法を他国のそれと比較する比較憲法学が深瀬の理論の骨格をなしていることです。例えば、深瀬が若い学者の時期その関心を占めたのはフランス革命でした。深瀬は、革命が自由・平等・友愛の普遍性を言いながらヨーロッパ中に侵略戦争をしたことに対比して日本国憲法が戦争放棄をしたことを浮かび上がらせました(第一部中村論文参照)。

にかけてエリート軍人の道を歩みました。しかし、一八歳の一九四五年八月一日を境に郷里に復員し、価値観の完全な転換の中で苦しみ模索し、平和を求める新しい人生に踏み出しました。この出発にあたって次のことがありました。復員していた高知で、深瀬は、旧約学者中沢洽樹の英語学習塾でキリスト教とであり、高知での矢内原忠雄の講演に感銘を受け勉強をやり直そうとしました。しかし、戦後の生活困窮の中で周囲は就職をすすめましたが、慈愛に満ちた母福美は勉学の道を選ぶ息子を信じその志を理解し日々働きに出て息子を支え、そのかいあって深瀬はやがて東京大学で憲法学者宮沢俊義の指導を得て憲法を研究します。このころらしいのですが、深瀬はこれからの日本は戦争放棄の国でなければならないといい父と初めて喧嘩したが、父は納得してくれたと感慨深く言われたのを想い出し

すなわち、日本の大勢は大正デモクラシーの時期でも国内と国外をそれぞれ別の原理に基づく二元論を当然としていました。戦後の日本国憲法は戦争放棄によってその二元論を打ち破って同一原理に立つ一元論の歴史的意義に深瀬は気づいていたのです。なぜなら深瀬の理解する戦争放棄は、国内で消極的に戦争をしないだけでなく、戦争放棄をすることによって国外すなわち外国の人々の人権を保障し友愛を積極的に実現することを求めているからです。彼の学問の戦いはこの両面を明らかにすることにありました。ですから、深瀬が非戦論に固執した内村鑑三ゆかりの札幌独立基督教会の会員であったことは彼の信仰と学問を結びつける生き方の証しに外ならなかったといえるでしょう。

(さががわのりかつ 国際基督教大学名誉教授  
四六判・三五三頁・本体二〇〇〇円＋税・新教出版社)

「信徒の友」記事を再編集、  
信仰生活の基本を(再)確認する

## 信仰生活ガイド 全5巻 主の祈り

林 牧人 編

新型コロナウイルスへの不安が募る今こそ、キリスト者の祈りの原点「主の祈り」に立ち返ろう。主の祈りを概説し、各言葉を優しく丁寧に解説。毎日の生活の中でいかに祈り続けられるかの手ほどきも行う。  
四六判 並製・128頁・1,430円

「洗礼への招き」から「受洗後の生活」まで、5人の著者が導く

## 洗礼を受けるあなたに

キリスト教について  
知ってほしいこと

越川弘英/増田 琴  
小友 聡/柳下明子  
山本光一

求道者、洗礼志願者の学びのための入門書。人間、宗教とは何かという広い問いから始まり、聖書・教会を焦点に洗礼の意義を解説、受洗後の信仰生活・社会との関わりについて手引きする。四六判 並製・152頁・1,760円

高森草庵で思索と労働の日々を送った押田成人神父の著作選集

## 押田成人著作選集2 全3巻 世界の神秘伝承との 交わり 九月会議

宮本久雄/石井智恵美 編

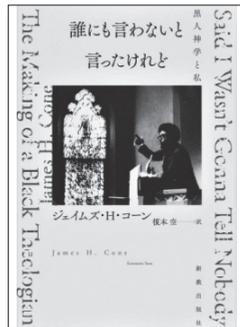
ヒンドゥー教やイスラム教など世界の伝統的宗教との出会い、インドや韓国で霊的生活を営む人々との交わりを描く。現代文明や技術主義に対する厳しい言葉を収録。  
A5判 上製・260頁・2,970円

## 日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail: eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)  
<http://bp-ucci.jp>

## 黒人神学をいま一度読んでみる

〈評者〉山下壮起



誰にも言わないと言ったけれど  
 黒人神学と私  
 ジェイムズ・H・コーン著  
 榎本 空訳

一九六〇年代後半、公民権運動では解決できなかった階級格差や根深く残る人種差別に対して、黒人の自決を叫ぶブラック・パワー運動が隆盛した。当時、無名だったジェイムズ・H・コーンは、ブラック・パワー思想を現代アメリカにおける福音として理解する取り組みのなかで黒人神学を生み出した。本書は自伝的形式をとりながら、黒人神学の誕生の背景、その弁証法的な展開について、生みの親であるコーンの生涯の歩みと重ねて描き出している。その点で、黒人神学に触れたことのない者にとっては良い手引きともなるだろう。

黒人神学は、聖書の福音は解放であるとの前提に立つ。コーンの取り組みは、白人優越主義によって否定されてきた黒人の人間性を取り戻し、黒人が黒人であることへの祝福を示すものであり、神学そのものを西洋神学の呪縛から

解放する営みとして行われた。コーンはパウル・テイリツヒやラインホルド・ニーバーといった神学者たちを厳しく批判する。ナチスに反対し、社会倫理の重要性を訴えるのに、なぜアメリカの黒人が置かれた状況については一言も発しないのかと。この批判は、ともすれば西洋神学の焼き直しとも揶揄される日本の教会や神学研究にも向けられるものではないだろうか。また、黒人への祝福を語る黒人神学を逆差別だと批判する白人神学者たちの姿は、二〇一〇年代のブラック・ライブズ・マター運動に対する白人からの拒絶反応と同質のものとして読み取れるだろう。

コーンの自伝をとおして、神学とはいったいどのような営みなのか、イエスの生涯に何を重ねるのかという問いを突きつけられる。その問いのなかで、コーンは苦難に対して燃える黒人の「炎」を受け継ぎ、イエスの福音を黒人のワード・サーマンやベンジャミン・メイズ、C・エリック・リンカーンなど、日本ではあまり知られることのない多くの黒人神学者や宗教研究者の名前が挙げられる。コーンはこれらの名を記すことによって、黒人の豊かな宗教経験、信仰の土壌、そして、なによりも奴隷制や人種差別の過酷さを生きてきた人びとの歴史的営みが黒人神学を生み出したことを示そうとしたのではないだろうか。それはまさに、共同体の先達の名を呼んで敬意を表すアフリカの儀式さながらである。

本書をつうじて、ゴスペルや霊歌をも含む黒人神学の魅力、その福音が再発見されることを願ってやまない。

(やました・そうき 日本基督教団阿倍野教会牧師)  
 (四六判・二八〇頁、本体三〇〇〇円＋税・新教出版社)

### ヨベルの新刊案内

李信建著 朴昌洙訳 **組織神学入門**  
**キリスト教神学とは何か**  
 神学教育の荒廃か!? 教会指導者の未成熟か!?  
 韓国学界の碩学が40年以上研鑽してこられた成果を1冊の本にコンパクトに凝縮。信徒に分かりやすい組織神学入門書が出来上がりました。基本を学ぶのに最適なテキストです!



\* 四六判美装・三二二頁・一〇〇〇円

東洋基督教大学教授 大和昌平著 **牧師の読 般若心経**  
 新装版にて再版!  
 評者 村上英智氏 (真宗寺住持)  
 第一は、第一章から第三章まで、とても分かり易い仏教の入門書。第二は同じ第一章から第三章についてですが、優れたキリスト教入門書。第三に本書は上質な般若心経の解説書。



ヨベル新書部 \* 新書判・三二二頁・一〇〇〇円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
 〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
 出版の手引き / 呈 (税別)

## 大教会に成長した謎を解く鍵

〈評者〉 戒能信生



イエスを見つめながら  
カンバーランド長老キリスト教会  
高座教会七〇年史  
カンバーランド長老キリスト教会高座教会編

神奈川県の中央部にある大和市は、戦後急速に住宅地が拡がった新興郊外都市、小田急線や田園都市線が通り、都心へも一時間ほどでアクセスできる至便のベッドタウンとして知られる。しかし何より注目されるのは、人口二三人ほどのこの町に、大和カルバリーチャペル（大川従道牧師）とカンバーランド長老キリスト教会高座教会（松本雅弘牧師）の二つの大きな教会が存在することである。いずれも教会員が千人を越え、礼拝出席者も五〇〇名をはるかに越えている。

この国にはメガ・チャーチが成立しにくいと言われてきた。一教会あたりの信徒数はせいぜい一〇〇名ほど、礼拝出席者は三五名前後が平均値とされている。それなのにどうしてこの町には、飛び抜けたメガ・チャーチが二つも存在するのだろうか。カルバリーチャペルが大川従道牧師の

カリスマ的な指導によって大きく成長したことはよく知られている。しかし高座教会の方は、長老派の教会であり、しかもカンバーランドという聞き慣れない教派である。その謎の一端を解き明かしてくれるのが本書『イエスを見つめながら』である。

本書によって高座教会の誕生から現在までの歩みを辿ると、その成長の鍵がいくつか見えてくる。先ず第一に、多くの地方で見られる檀家制度を含む強固な共同体意識が希薄な地域であったこと、それに代わって新しい文化都市とコミュニティ形成を志向する知識人たちが草創期を担ったこと（その中には、キリスト者にならなかった者も含まれる）、そして厚木基地の米軍チャプレンたちの存在とその支援が上げられるだろう。

を担った吉崎忠雄牧師、それに続く生島陸伸牧師、何人かの牧師たちによる共同牧会を経て、現在の松本雅弘牧師に至るまで、靈性に満ちた優れた牧師たちの存在がある。

そして第三に、日本基督教団の開拓伝道の一つとして始まりながら、主に財政的な理由から、米軍チャプレンを通してアメリカのカンバーランド長老教会の支援を受けることになり、やがてそれは長老教会としての自覚と健全な教会観が育まれていったこと。

第四に、創立当初から地域の幼児教育に取り組み、それは現在も続く定員二〇〇名の「高座みどり幼稚園」として成長し、その優れた保育への地域の信頼から、多くの保護者たちが教会生活に導かれていくことにつながる。

そして第五に、私自身はこれが最も注目する点であるが、

信徒集団としての共同体が形成されたということである。

この七〇年史にしても信徒たちが手分けして執筆している。いわゆる牧師主導型の教会ではなく、まさに長老教会として歩んできたことを、それは如実に示している。この国のメガ・チャーチのほとんどは、カリスマ型の指導者によって生れることが多い。その点で、地域に根ざした信徒の共同体として形成されているところに、高座教会の大きな特質があると言えるだろう。それ故に、七〇年間の歩みの中でも、牧師の交代や礼拝堂建築などをめぐって、合意形成が容易ではなかったことが率直に述べられている。しかしそのような様々な困難を通して、むしろ長老教会として健全な歩みが形成されたのではないだろうか。

（かいのう・のおお // 日本基督教団千代田教会牧師）  
（A5判・二七〇頁・本体二〇〇〇円＋税・新教出版社）



## コラージュ入門

藤掛明  
FUJIKAKE Akira



立ち止まって、  
たましいの深呼吸。

コラージュとは  
心理療法の一つ。  
イメージ遊びで、  
意外な自分の発見が。

A5判  
定価[本体 1,400 + 税] 円  
ISBN978-4-86325-122-9



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

現代人が考えるべき課題を  
縦横無尽に論じる

〈評者〉小原克博



現代神学の冒険  
新しい海図を求めて  
芦名定道著

本書は、現代神学の現状を幅広く視野に収めながら、細分化・複雑化した神学の諸潮流に大きな構造を与え、同時に現代神学の行方を示そうとする意欲的な著作である。書名は、本書の目的を端的に表している。現代神学に関わるということは、既成の海図によって目的地に到達できるような航海ではなく、むしろ、新しい海図を作りながら前進せざるを得ない冒険のようなものである。とはいえ、新しい海図はゼロから生じるものではない。

本書では、現代を理解する上で前提となる近現代の神学史と、そこで問われてきた課題を的確に整理した上で、現代および近未来の課題を描写している。本書で扱われているテーマは多岐にわたるが、全体のイメージを伝えるために、まずその構成を紹介したい。第一部「現代神学とは何か」、第二部「現代神学の海図に向けて」、第三部「解放

の神学」系」、第四部「科学技術の神学」系」、第五部「現代神学を展望する」から本書は成り立っている。

第一部と第二部では、近代からポスト近代に至る、我々が置かれている歴史的文脈が描写され、また、現代神学がその海図の中に描き入れられるべき政治・経済・環境をめぐる課題が論じられている。また、本書の方法論もここで述べられている。いかなる時代の課題を論じる場合でも、キリスト教神学にとって聖書が基本的リソースであることに変わりはない。一方に聖書を置きつつ、他方に現代を論じる上で欠かせない社会科学の知見を据えて、「これらの二つの極の間に張り巡らされる空間が現代神学のフィールドにほかならない」（二〇九頁）という。

もう一つ本書のユニークな隠し味となっているのが「拡張された自然神学」（二二頁）である。この言葉は頻繁に

繰り返されるわけではないが、新しい海図を描き込むキャンパスの役割を果たしている。著者の芦名定道氏は、これまでも自然神学に関するすぐれた論考を著しており、その知見が現代神学の分析のために本書において生かされている。プロテスタント神学に精通する読者の中には「自然神学」という言葉を聞くだけで、それを克服すべき近代主義的あるいはカトリック的残滓と考える方もいるかもしれない。しかし、著者が「拡張された自然神学」によって考えているのは、神学と人文社会科学・自然科学さらには諸宗教との相互関係を可能にするコミュニケーション合理性の学問的基礎付けを与えるものである。

こうした意欲的な構想に支えられて、第三部と第四部では、より具体的な現代の課題が取り扱われることになる。

（こはら・かつひろ 同志社大学神学部教授）

礼拝の意味を問い続けてきた画期的な書に  
新たな章が加わり待望の復刊

〈新装増補版〉

今、  
礼拝を  
考える

ドラマ・リタジー・共同体

越川弘英 著

さあ、はじめよう。

「神の民のわざ」  
としての礼拝の再発見。  
教会にとって、ほんとうに  
大切なことを探す旅。



「キリスト者の人生における礼拝の意味」を問い、「キリスト教礼拝の全体のイメージ」を考察。招詞から祈り、聖書朗読、説教、献金、聖餐、祝福まで、礼拝で行われる、それぞれの意味を丁寧に解き明かす。キリスト教礼拝の多様性と豊かさを味わうための一冊。  
新たに「教会建築と礼拝」「3・11と礼拝」「礼拝の診断」、1500の教会を対象に行った大規模アンケート調査を元にした論考も新たに追加。

四六判・並製・304頁・本体1800円＋税

キリスト新聞社 since 1946

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
AVACOビル6階 TEL 03-5579-2432

初めて学ぶ人のための  
ポイントを押さえた入門書

〈評者〉 落合建仁



キリスト教史の学び(上)  
越川弘英著

皆さんは、キリスト教の歴史を学んだことがありますか？——信仰生活の長い方々であっても、キリスト教それ自体の歴史・キリスト教史については、意外とよく知らないという場合も多いのではないのでしょうか。それは、聖書を読み、あるいは説教を聞くというだけでは、どうしても十分に会得することができない範疇だからです（かく言う筆者も、神学校に編入学するまで学んだことがありませんでした……）。そうした中であって、この度、キリスト教史を通史で学ぶに際し、とても分かりやすい入門書が新たに出版されました。本書は、著者が大学における入門用テキストとして著された、『旧約聖書の学び』（二〇一四年（日本図書館協会選定図書））と『新約聖書の学び』（二〇一六年）の続編に位置すると言えるものです。

著者は本書を「キリスト教の歴史を初めて学ぶ方々のた

たといえば、随所に各専門家の説（明）が引用・挿入されているのですが、それがまた大変興味深く、その専門家の本を読んでみたい、という思いに駆られます（筆者は、古代キリスト教研究におけるP・ブラウンの諸著作や、中世最大の異端とされるカタリ派の実体について言及された書物に興味を持ちました）。読者は、各章の最後に掲げられた参考文献によって、さらに学びを深めることができます。筆者が大学の授業で学生さんたちからしばしば尋ねられる問いがあるのですが、〈なぜキリスト教は民衆やローマ皇帝から迫害を受けたのか？〉〈なぜキリスト教はローマ帝国において急速に広がったのか？〉等についても、本書はポイントを押さえて説明してくれます。また、随所に散りばめられた四十六個（！）のコラムも、たとえば「修道士

めの入門書である」（三頁）と位置付け、キリスト教の歴史を、古代、中世、近世、近現代という四つの時代に区分し、本書上巻では、古代と中世を扱っておられます。以下、目次を掲げますと、第一部：古代のキリスト教（古代のユダヤ教とイエス・キリスト・キリスト教の成立と展開・ローマ帝国とキリスト教・古代の修道制・東方教会の歩み）、第二部：中世のキリスト教（ヨーロッパ中世の開幕・中世前期の混乱と再編・教皇と皇帝・民衆の信仰、十字軍、異端・中世の修道制・教皇権の動揺と改革運動・宗教改革の先駆者たち）となっています。

内容はとても読みやすく、上巻だけで三百頁以上ありますが、その分量をとっても感じさせないものでした。なぜならば本書の随所において、読者の興味関心を引きつけ、またそれに応えていくという展開があるからだと思えます。

と「笑い」、「教皇」と「法王」の違いについて、「民衆十字軍と少年十字軍」、「奴隷を救出する修道会」等、興味深いものばかりです。

このように、キリスト教の展開に対する理解そのものはもちろん、キリスト教に関わる映画・ドラマや小説を理解する上でも、本書での学びはきつと有用なものとなるでしょう。続く下巻ではいよいよ宗教改革以降の時代が取扱われます。下巻の出版を楽しみにしつつ、これから初めてキリスト教史を学ぼうとする多くの方々に、本書をお勧めしたいと思えます。

（おちあい・けんじ）金城学院大学文学部准教授、宗教主事  
（A5判・三二二頁・本体二〇〇円＋税・キリスト新聞社）

ヨベルの新刊案内



スタンリー・ハワース 東方敬信訳 A5判変型  
世界の注目を集めた「ギフト」講義 四一六頁・二八〇〇円  
宇宙の筋目に沿って ISBN978-4-909871-13-8

礼拝とは神の王国を先取りする行為なのだ。

自然神学に関する研究の舞台として名高いセント・アンドリュース大学「ギフト」講義。そこに、礼拝を中心とする神学的倫理学の確立を強く説き、証しする共同体としての教会の今日的意義を熱く展開させた碩学、スタンリー・ハワースによる講義！

フリッツ・ブリー 岡田聡訳  
実存の哲学か、実存の神学か？



本邦初訳！

シュヴァイツァー、ヤスパーらから影響を受け、ブルトマン、バルトラムの対決のなか、自らの「哲学的神学」を形成したフリッツ・ブリー。

四六判・一六八頁・一五〇〇円  
ISBN978-4-909871-14-5

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税別)

「人である方は、「男でも女」  
でもないー性差別からの解放を

〈評者〉 岩村義雄



「新」キリスト教入門(2)  
実践編 共存・共生・共創にむけて  
新免 貢著

「雄々しくあれ」(二コリント 十六・13) とか、「聖書に書

いてある」と、教会は無批判に性差別を誤導してきました。伝統的な価値観にしがみつくエートスは現代社会において教会が一番濃厚に思えます。たとえば、男女に分かれての競技、「男は男らしく、女は女らしく」、また本書を読むまで、神学生たちに「〇〇君」と呼びかけていた鈍感さについて目を覚まさせられました。教会の外の状況は以前とは異なります。「男が先・女が後」の名簿についても学校では混合出席名簿が用いられます。出生証明書に男女を特定しなくなっています。男性も女性ホルモン治療によりトランスジェンダー(性別転向者)がスポーツ競技で活躍する時代です。キリスト教会は、個の魂の救済、イエスを信じる、礼拝に欠かさず出席することなど、そうした狭い「救い」を掲げてきました。それでは導けない現代課題がつきつけられ

ています。

自然災害により増大する被災者、核家族の終着駅である孤独死、「無宗教」という逆風に太刀打ちできていません。とりわけ伝統的モラルに逆行するかのようにとらえられる LGBT (Lesbian (レズビアン 女性同性愛者)、Gay (ゲイ 男性同性愛者)、Bisexual (バイセクシュアル両性愛者)、Transgender (トランスジェンダー 性別越境者) やその他のセクシュアル・マイノリティ (少数者) に無知、無関心、消極的です。旧態依然とした価値観では、キリスト教はまるで化石のようです。もちろん真理はコロナ変わるようであっては本質を見誤ります。本書は死に体のような日本の教会に対して、第五部では邦訳されていない原著を駆使し、聖典から光を照明しています。

フーコーは政治支配の目的で人間の身体に向けられる監

視的作用を「生権力 Biopower (人間の生を支配する力)」と呼びました。教会も生権力によって、聖書翻訳に忍び込んできた同性愛蔑視について著者は痛烈にクリティックを展開されています。著者は、聖書翻訳に、同性愛有害論(同性愛が病的傾向であると見なす)のイデオロギーが絡んでいることを立証しています。

もし性的マイノリティの方が教会に來られた場合、どう接するのでしょうか。

「自由」「排除」「放任」のいずれを選ぶのでしょうか。たとえば自分の子どもや孫が配偶者に性的少数者の方を選んだと、報告された時、どのように反応すべきですか。「リベラリズム」は選択についてあくまで当人の自由と考え、尊重します。しかし、「男」と「女」という二項対立から自由でないフェミニスト的聖書解釈の限界の空気を世からいっばい吸っている教会です。教会内でも異性愛社会を巧

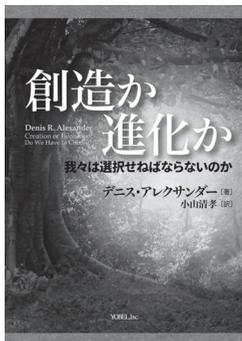
妙に支える伝統的解釈があります。そんな硬直化した霊的心筋梗塞を凌駕する「キリストの観点に立つ聖書本文分析」が説かれています。「キリストにおいて」だれであろうとも「男」と「女」の二分法から脱却することを本書は迫ります。「男」、「女」の二形性をもつセクシュアリティの廃棄を読者の心にくさび打ち込みます。「男女なる人」という視座への覚醒です。すると、私は、読後に、説教準備をしていた際、「見よ、この人だ」について目が開かれました(ヨハネ十九・5)。ピラトは、キリストが「男」(アルセン)ではなく、「人」(アンスロープス)だと語ったのです。

管理社会を超える「隣人愛」に基づいた世界観は、読者の良心に訴えます。本書をおすすめいたします。

(いわむら・よしお Ⅱ エラスムス平和研究所所長)  
(A5判・三二二頁・本体二三〇〇円＋税・燦葉出版社)

## 進化アレルギーとの 決別へ道を拓く!

〈評者〉 関野祐二



創造か進化か  
我々は選択せねばならないのか  
デニス・アレクサンダー著  
小山清孝訳

聖書を誤りなき神のことばと信じ、その權威をことさら重んじる福音派陣営において、理数系出身のキリスト者は気を遣う。評者もその一人だが、理由は自然科学、とりわけ進化論の問題をどう扱うかが、言わば正統的福音主義の「踏み絵」化しているからである。この領域は、創世記一章二章の「地雷原」だから、たいせつなテーマと分かっているけれども皆一様に口をつぐむし、CSやユース世代の素朴な疑問にも、実のある応答を持ち得ないのだ。書籍の分野でその重い扉を最初にこじ開けたのは、大谷順彦『進化をめぐる科学と信仰』（すぐ書房、二〇〇一年）であろう。

次がフランシス・コリンズ『ゲノムと聖書』（NIT出版、二〇〇八年）、最近ではジョン・H・ウォルトン『創世記一章の再発見』（聖契神学校、二〇一八年）が加えられた。世界的コロナ禍の国内終息目処が立たない中、分子生物

学（免疫学・ゲノム学・遺伝学）および科学と宗教を専門領域とする、英国人デニス・アレクサンダー作の本書（原書初版二〇〇八年、第二版二〇一四年）が、民間のクリスチャン化学者によって翻訳出版された意義は大きく、また時宜に適っているであろう。ちなみに、原書初版の筆頭推薦者は前述のコリンズで、第二版にはウォルトンの当該書が数多く引用されているから、内容的に主張が同列であることは容易に想像がつく。

本書はまず、創世記の言語や慣用表現、文学ジャンル、文化的背景の王道から入り、創造の聖書的意義を確かめた上で、科学の教科書としてそれを読む不適切性を示す。第三章からは生物進化そのものを扱うが、本論の前に著者は、「進化」をイデオロギー的無神論と決めつけたり、進歩や発展の代名詞として用いる誤りを指摘し、「生物学的多様

性の科学的説明」であると強調する。続く放射性同位元素による年代決定の信頼性実証、近年著しい発展を遂げた染色体・DNA・遺伝子研究の専門的記述は圧巻で、興味ある読者がわくわくする最新情報満載だ。進化とは生命体の遺伝子変異と自然選択の仕組みであり、いわゆる冷酷無慈悲な「自然淘汰と最適者生存の競争原理」とは別物。「我々の脳の形成においては、膨大な「自然選択」が関わっているのである」（二〇四頁）。種の形成と消滅、化石証拠の詳細な説明がこれに続く。

第六章では、進化と偶然、再現不可能性問題、熱力学第二法則との関係、外見上の古さ問題、眼の形成過程など、典型的な反進化論にひとつひとつ答える。創世記一章二章の解釈を踏まえた上で、神のわざとして進化を容認した過去のキリスト者を紹介し、同時に進化のイデオロギー的悪用の諸例を暴き出す。

第九章からは、アダムとエバとは何者なのか、創世記と進化生物学を対話させるキリスト者注目の内容で、死と墮落、神義論をも扱う。ID（知的設計）論の不適切性を論証した上で、生命の起源の科学的可能性に触れて締めくく

られる。これだけ大部で徹底した創造論的進化論の書は過去に類例がない。挑戦的タイトルへの返答は、読んでのお楽しみだ。

本書の翻訳には、生物学と神学双方の専門知識と用語に精通した二刀流を求められるが、訳者は謙虚にその役を果たし、頻出する英語慣用語も、原書注とは別の訳注で説明がなされているので心地良い。後追いで刊行された、訳者書き下ろしの新書版エッセイを併せて読むなら、本書翻訳の背景物語がくっきり浮かび上がり、親しみが湧くだろう。

聖書を愛するキリスト者は、日々自然科学と科学技術の恩恵に首まで浸かりながら、ウィルス対策への応用は言うに及ばず、今や自然科学界の常識でもある生物進化論を、領域侵犯と思考停止で全否定する認知的不協和から、本書を通してそろそろ足を洗うべきではないか。進化アレルギーの治療には地道で真摯な体質改善しかない。その気さえあるなら、本書はじわりと効く漢方薬となるはずだ。

（せきの・ゆうじ＝聖契神学校校長）

（A5判・五〇四頁・本体二八〇〇円＋税・ヨベル）

# 「日本教」の核心部分を提示

〈評者〉 間瀬啓允



母子の情愛  
「日本教」の極点  
西谷幸介著

最近下火の日本人論に「活を入れる」好著です。狙いは一に、当の日本人に納得のいく「自分たち論」をものにしていくため、二には自分たちの特性である民族文化を再評価して、これを人間本性に基づく理想的な人類社会の実現に向けて、その三は人類社会の根底にある文化の根源に宗教を見て、「宗教は文化の内実であり、文化は宗教の形態である」という命題（ポール・ティリツヒの「文化の神学」の有名な命題）を肉付けるためです。こうした狙いのもとで、本書は私たち日本人の文化や社会の諸現象を巧みに分析しています。

副題に使われている「日本教」というのは日本人理解のためのカギとなる概念です。そして、この概念を基本的に理解するために、山本七平、森 有正、立花 隆等による議論を具体的に紹介しています。なかでも山本七平の「日

心部分とされているのです。「言い換えれば、日本人の究極的関心、その宗教的価値体系の中心は、実はこの『母子の情愛』にこそある、というのが私の確信です」と表明して、著者はこれを本書の「全体統合的価値」としているのです。この見解を裏付けるものとして、河合隼雄、暉峻康隆、小此木啓吾、土居健郎、柳田国男等による議論（日本人の「母性」をめぐる議論）を易しくも説得的に紹介しています。本書の「おわりに」において、著者は日本人がその社会的心性においても、また歴史的にも、「母性原理社会」を形成してきたことを跡付け、その内奥には「母性の情愛」という究極的な価値が存在することを論証しています。そして、とりわけ興味深いことには、その「究極的価値観」を証拠立ててくれるのが、さらに「神道」であるとして、それ

本人の日本人知らず」「（日本教）概念の提示」「日本教徒キリスト派」等々への言及は、温故知新の問題提起として大いに啓発的です。そして、この「日本教」を極点と成すものが、表題の『母子の情愛』なのです。ちなみに本書のカバーには、重要文化財である邦画、狩野芳崖の筆になる「悲母観音」が印刷されています。

「母子の情愛」は既存の仏教や儒教とは区別される、わが国固有の、著者の特筆大書する「暗黙の宗教」です。そこで著者はこの核心に迫るために、日本人の特異な文化現象、たとえば「臓器移植への否定的態度」から出発して、こうした態度が日本的な「恩の倫理」の結果であり、さらにその倫理が自然な情愛にもとづく「親子関係」を母体としたものであることを跡付けています。この親子関係を著者は「母子の情愛」として特定し、これを「日本教」の核

を裏付ける資料（五カ条から成る『神道信条』、一九九九年に神社本庁が外国人向けに刊行した英文パンフレット）を紹介しています。

著者は青山学院大学教授 同学院宗教主任を経て、現在は日本基督教団戸山教会の牧師です。「あとがき」には「本書は著者の日本人論の半分に過ぎません」と記されていますが、残されたその「半分」には日本人論に対するキリスト教の立場、牧師の立場からの鋭い切り込みがあるのでしようか？ 興味を引かれます。他日を待ちましょう。

（ませ・ひろまさ）宗教哲学 慶應義塾大学名誉教授  
（新書判・二〇八頁・本体一〇〇円＋税・ヨベル）

新刊

## 死生学年報 2020

### 死生学の未来

東洋英和女学院大学 死生学研究所編  
●A5判並製 本体2500円＋税

古代の死生学から未来へ  
『ギルガメシュ叙事詩』を  
読みなおし続ける  
渡辺和子

現代世界における  
「宗教」のヴィジョン  
鶴岡賀雄

哲学的主題としての  
死後生の問題  
深澤英隆

心の病に寄り沿うということ  
福田 周

ひきこもり状態にある人々の実態  
渡部麻美

この人生をどう終えるか  
人生の終末期における意思決定と  
死生観について  
奥野滋子

「小さな死」と「救し」  
大林雅之

復讐は生きがいとなるのか  
根岸紗那

他、7篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402  
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

# 戦時下の国家主義体制における キリスト教史の貴重な記録

〈評者〉 辻 直人

本書は、耶蘇基督之新約教会、通称「森派」に対して戦時下起きた弾圧について明らかにした一冊である。前半は川口葉子氏による緻密な歴史研究、後半は森派指導者の一人だった寺尾喜七に対して行われた司法警察官（特高）による尋問調査が三十頁以上にわたって掲載されている。戦時下の資料集的性格と同時に、これまでの日本キリスト教史研究ではほとんど注目されてこなかった森派について、史料に基づいて彼らの信条や戦時下の様子が丁寧に紹介されたことは、意義ある成果である。

森派は森勝四郎が高知県内で始めた集会所が発展した団体である。一九四〇年の宗教団体法により「宗教結社」とみなされ、「耶蘇基督之新約教会」と名乗るようになった。森勝四郎は二十世紀初頭に高知での伝道を始め、一九一二年に安芸基督教講義所が設立された。一九一三年頃には信

強さが、一般社会とは一線を画した信仰を維持できたのではないか。彼らの三位一体の神への服従を第一とする福音信仰が、収録されている尋問調査から明らかにされている。寺尾喜七の尋問調査はキリスト教信仰の要点が的確にまとめられており、これだけで一つの教理問答としても読める内容で、実に興味深い。

戦時下においても、天皇制と妥協しない筋の通った信仰を表明できたのは、驚きでもある。当時の多くの教会やキリスト教学校の指導者たちは、国家からの要求に従いながら、組織を守ることに苦心した。しかし、寺尾喜七ら森派の信者たちは、純粋に信仰を保持していた。天皇制や国家体制に対して、例えば「真実の所、天皇陛下は人間であります。人を神聖なる神として尊敬する訳にはゆかないので

## 知られなかった 信仰者たち



知られなかった信仰者たち  
耶蘇基督之新約教会への弾圧と寺尾喜七  
「尋問調査」  
川口葉子、山口陽一著

者数が増え、大阪、神戸、姫路、伊勢、東京へも勢力を拡大していった。しかし一九四一年から四二年にかけて治安維持法で四十三名もの信徒や指導者が検挙され（うち二十二名が起訴、二名が実刑判決を受けている）解散に追い込まれている。

森は一切著書や論文を書かず、説教の原稿も書き残さなかった。語る時は神からの啓示を直接受けていたという。一九二〇年、四十七歳の若さで肺壞疽のため召天した。その信仰は厳格で、「信仰と生活は一体化し（中略）信仰の妨げとなるような社会的指導層を避け、地位の低い農業や商業、人の下に立つ労働者になることを望んだ」（二五頁）。一方で、製糸工場経営者だった信者は、三百名まで増加した従業員と毎朝工場礼拝を行っていた。工場従業員や農商業従事者を中心に広まった信仰者集団としてのつながりの

あります」（七七頁）と、ここまで断定的に自分たちの主張を伝えたことは、非常に貴重な事例である。

同書は多くの検討すべき論点を含んでいる。例えば三八頁以降に登場する、キリスト教の「ゴッド」に「神」という訳を採用したことが神社の「神」と混同されることになったという指摘は、当時のキリスト教指導者や宣教師たちも言及している。キリスト教の神と神道の神との間でどう折り合いをつけてきたのか、当時のキリスト者たちの信仰や宗教政策の論理を明らかにする上で、もっと丁寧に検討すべき点であろう。

今でも天皇制の残るこの国で信仰者はどのような態度を取るのか、考えさせられる一冊であり、多くの人に一読いただきたい。

（四六判・九四頁・本体九〇〇円＋税・いのちのことは社）



## JKに語る！ 新約聖書の 女性たち

説教集

久野牧

HISANO Nozomu



カタブツ牧師  
×  
フリーダムJK

絶対に重ならない2人の  
絶妙なマッチ！  
いざ、キックオフ！

A5判変型  
定価【本体 1,600 + 税】円  
ISBN978-4-86325-121-2



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
http://www.ichibaku.co.jp  
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

## ナウエンのいのちが裂かれて 私たちに差し出されている

〈評者〉 吉川直美



ナウエン・セレクション

### 今日のパン、明日の糧

暮らしのいのちを吹きこむ366のことば

ヘンリ・ナウエン著

橋本 操監訳、河田正雄訳、酒井陽介解説

ヘンリ・ナウエンの集大成とも言える『今日のパン、明日の糧』が、聖公会出版から日本キリスト教団出版局に引き継がれ、装いも新たに刊行された。ナウエンの著作の中でも、特別な位置づけにある本書が入手可能となったことに、安堵と感謝を覚えている。

本書の執筆は一九九五年、ナウエンが心臓発作で急逝したのは一九九六年、出版はその翌年、つまりナウエン最晩年の作品である。執筆を勧めた編集者は、すでに発表されたものの中から選りすぐって編むことを提案したが、ナウエンはそれを頑なに拒んで、すべてを新しく書き起こしている。序文にあたる「この本を書くに至るまで」を読むと、彼がこの執筆にどれほどの情熱と愛を注いでいたかが生き生きと伝わってくる。

筆者はナウエンの召された年齢に近づくにつれ、その早

り込まれている。

しかし、この旅は確かに冒険である。ある日は「私の愛する者」と呼びかける声が聞こえたかと思うと、別の日には「孤独」という風が吹き込んでくる。誰もが日常で経験する小さな綻びや恐れ、隠されている傷や影にまで、ナウエンはイエスの光を当てる。それは決して暴き立てる光ではなく、銀貨を探すために点した灯火のようにあたたかい。心の片隅にまで神の光を注ぎかけるかのようだ。その上いつの間にか、神の壮大なビジョンに導かれて心が燃やされている。まるで、エマオへの旅人に伴われたイエスのようではないか。私たちを支配する否定と呪いのことばを、神の愛の声、祝福の約束に語り直し、イエスを霊の目で知ることができるよう、ナウエンのいのちが裂かれて差し出されているのだ。

筆者は書評執筆のために駆け足で読まなければならな

すぎる死を惜しむ思いに駆られる。老いや死を見詰めるナウエンから絞り出されることばを聴きたかった、パトモス島の老ヨハネよろしく、円熟したナウエンは何を語ったろうかと。しかし改めて本書を読み通して、必要なことはすでに語られているという満足感に包まれた。ナウエンは自身の「真に霊的な冒険」の旅を終え、私たちに十分すぎるほどの贈り物を遺して、「新しいいのち」へと旅立ったのだ。

さて、興味深いことに本書は一年間の黙想集にもかかわらず、教会暦とは清々しいほどつながりがない。聖書が引用されている日もあるが、最初から最後まで、旅を導く羊飼いはナウエンである。それでいて主イエスの豊かさ、あわれみ、真実から一步も逸れることがない。そればかりか、語り口は柔らかいが（翻訳も素直で読みやすい）、彼の生きた神学や教会論が、専門用語を使わずともしつかりと練

かったが、一日一日があまりに味わい深く、ことばの余韻に浸ってしまい頁を繰る手も止まりがちであった。四月一日には、「霊的なことについて霊的に本を読む時、私たちは心を神の声に対して開きます。時々読んでいる本を横に置いて、本に書かれている言葉を通して、神が語っておられることに耳を傾けるようにしましょう」とあるが、まさしく神からの深遠な問いかけに、時を忘れて耳を傾ける体験であった。私たちの生きる世界が大きく変わったとしても、ナウエンのことばは色褪せることなく、毎日の糧とする者に霊的な経験を与え続けるに違いない。

一年とは言わず何度でも、そして共同体と一緒に、ナウエンの導くこの「霊的な冒険」に繰り出して行きたい。今日も明日も——イエスに出会うために。

（よしかわ・なおみ 聖契神学校教師、シオンの群教会牧師）

（四六判・四二四頁・本体二四〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

全国のキリスト教書店員が選んだいちばん読んでほしい本

# キリスト教書店大賞2020

主催 キリスト教出版販売協会

2019年1月～12月に出版された  
キリスト教書の中から

全国のキリスト教書店員が大賞を選出します。



## ノミネート 10作品

〈タイトル50音順〉

※表示価格は10%税込価格

### かみさま、きいて! こどものいのり

大澤秀夫 / 真壁 麻 監修  
1,100円

**オススメ**  
幼稚園のノンクリスチャンの先生もいっしょになってお祈りできる良い本です。  
キリスト教書店ハレルヤ 嶋津秀成さん

### 愛の余韻 榎本てる子・命の仕事

榎本てる子 著  
青木理恵子 編  
1,980円

**オススメ**  
手にとる方の心に響いたからか、気がつくや在床が無くならない。命をかけた証しは心に響くものなのだと感じた。  
善隣館書店 浜田陽子さん

### 新しい一人の人

ユダヤ人と異邦人との和解  
ユダヤ人と異邦人の和解  
アリエル・ローレンス・ブルメンソール 著  
One New Men 翻訳チーム 訳  
2,200円

**オススメ**  
ユダヤ人と異邦人の隔ての壁、人の持つ罪について新しい視点を与えてくれました。興味深い内容で、教会での学びにも使用しています。  
ゴスペル・ライト・ストア 南 康乃さん

### 十字架への道 受難節の黙想と祈り

小泉 健 著  
1,320円

**オススメ**  
レントの黙想と祈りの時を豊かに導いてくれる本です。プレゼントにも最適です。  
静岡聖文舎 杉村暁子さん

### 神の祝福をあなたに。

歌舞伎町の裏からゴッドプレス!  
関野和寛 著  
1,100円

**オススメ**  
前作に比べてタイトルがおとなしいなと思ったのですが(笑)、舞台は変われど笑いと涙と神さまへの熱い想いであふれていました。  
大阪キリスト教書店 上田玲子さん

### 今日のパン、明日の糧

暮らしにいのちを吹きこむ366のことば  
ヘンリ・ナウエン 著 嶋本操 監修  
河田正雄 訳 酒井陽介 解説  
2,640円

**オススメ**  
揺れ動くことが否定的に捉えられがちな中で、揺れ動き、迷うことへの肯定があることに救いを感じられます。  
アパコ・ブックセンター 山本真里江さん

### にゃんこバイブル

猫から学ぶ聖書(バイブル)のことば  
塩谷直也 著 勝間としを 絵  
1,980円

**オススメ**  
表紙のイラストのかわいさに手に取り、各ページの猫たちにほっこりし、添えられているみことばとエッセイが更に心をいやしてくれます。  
ライフセンター新潟書店 永井美智代さん

### ぬくもりの記憶

片柳弘史 著  
1,100円

**オススメ**  
片柳神父のわかりやすい語りがつづられたとても良い本です。  
北九州キリスト教ブックセンター 萩 正博さん

### ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教  
山下壮起 著  
3,520円

**オススメ**  
ラップ・ミュージックとキリスト教との深い関係を解き明かした良書。ラップに対しての考え方が変わった。  
教文館 大倉公平さん

### 若者に届く説教

礼拝・CS・コースキャンブ  
大嶋重徳 著  
1,320円

**オススメ**  
「説教とは何か?」「説教原稿をどのように作るのか?」という基本から、説教の構成や語り方、若者との信頼関係の築き方までこの一冊で学べます。  
仙台キリスト教書店 瀬谷智香さん

## キリスト教書店大賞

フェイスブックページ  
<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear/>

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunsyo.or.jp>

2019年12月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ: 「聴く本」が好き	原 敬子	
特集: 「LGBT」を学ぶならこの三冊!	中村吉基	
主イエスは近い	小泉 健著、日本キリスト教団出版局	上田 彰
すべてのものとの和解	エマニュエル・カトンゴレ他著、日本キリスト教団出版局	榎本 恵
近代日本にとってのキリスト教の意義	日本キリスト教文化協会編、教文館	鈴木 範久
3分間のグッドニュース [福音]	鎌野善三著、ヨベル	山崎 ランサム 和彦
バルト神学とオランダ改革派教会	石原知弘著、新教出版社	佐藤 司郎
死のただ中にある命	近藤勝彦著、教文館	左近 豊
アドルフ・フォン・ハルナックにおける「信条」と「教義」	加納和寛著、教文館	安酸 敏真
神の狂おしいほどの愛	松島雄一著、ヨベル	大頭 真一

2020年1月号

巻頭エッセイ: 聴き上手になりたい	野村 稔	
特集: 「キリスト教文学」を学び直すにはこの三冊!	柴崎 聰	
詩編を読もう 下	広田叔弘著、日本キリスト教団出版局	松本 敏之
遠藤周作と井上洋治	山根道公著、日本キリスト教団出版局	木崎 さと子
今さら聞けない!? キリスト教	菊地伸二著、教文館	近藤 剛
労働者の司教ケテラーとその時代	桜井健吾著、教文館	梅津 順一
組織神学 第一巻	W.パネンベルク著、新教出版社	芦名 定道
ハイデルベルク信仰問答との対話	G.プラスガー著、教文館	小堀 康彦
礼拝改革試論	越川弘英他著、キリスト新聞社	浦上 充
愛の余韻	榎本てる子著、いのちのことば社	ロブ・ウイットマー
どん底から見える希望の光	佐々木炎著、キリスト新聞社	木原 活信

2020年2月号

巻頭エッセイ: 実証的調査によって接近する「信仰の感覚」	有村 浩一	
特集: 「豊かな霊性に満ちた祈り」に学ぶならこの三冊!	吉岡 光人	
エッセイ: F・ハーン「新約聖書神学I・II」完結によせて	大貫 隆	
主は偕にあり	田中遼聖著、新教出版社	寺園 喜基
ユダヤ教とキリスト教	上智大学キリスト教文化研究所編、リトン	手島 佑郎
ACTによるパストラル・カウンセリング入門 [理論編]	早坂文彦著、ヨベル	萩原 光
ヨブ記に聞く!	塩屋 弘著、ヨベル	山崎 忍
人になれ人、人になせ人	關岡一成著、教文館	茂 義樹

## 10周年記念企画 読者が選ぶ「歴代ベスト3グランプリ」2011~2019

キリスト教書店大賞10周年を記念して、歴代ベスト3作品27点の中から、読者投票で「歴代ベスト3グランプリ」を決定します!  
歴代ベスト3の中で好きな本1位から3位に投票しよう! 1位を3点、2位を2点、3位を1点として、期日までの合計得点が最も高い作品が「歴代ベスト3グランプリ」!

投票サイト [http://tagvote.grinspace.jp/Cb01\\_Vote?Key=114f5d3096a846ff8a5f1a9d4c9f9417](http://tagvote.grinspace.jp/Cb01_Vote?Key=114f5d3096a846ff8a5f1a9d4c9f9417)

投票 ▶ 2020年7月31日まで

発表 ▶ 2020年8月上旬

\*投票は外部サイト「タグボート」で実施します QRコード読み取りでもアクセスできます。  
\*投票はお一人1回のみ有効です

投票サイトでの  
コメント書き込み  
大歓迎!



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区錦2-2 緑ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshata.cococan.jp/	nagoya-seibunshata@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www.w6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環郡読字翁塩777	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

A5判・360頁・本体予価4000円

「神よ、変えられないことを平静に受け入れる恵みを、変えるべきことを変える勇気を、そして双方を見分ける知恵をわれらにお与えください」。このあまりにも有名な「平静の祈り」(一九四三年)が生まれた時代背景・神学状況とニーバーの人生行路を愛娘が綴る。

エリザベス・シフトン著  
穂田信子訳、安酸敏眞解説

——ラインホルド・ニーバーとその時代(仮題)

■新教出版社

■新教出版社

四六判・128頁・本体1300円

現代を生きるキリスト者にとっての十戒を知る決定版!

吉岡光人編

十戒

信仰生活ガイド

## ■教文館

### 日本キリスト教歴史人名事典

鈴木範久監修

日本キリスト教歴史大事典編集委員会編  
最新の研究成果や新事実を反映した約51500人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程標ともいうべき必須の基礎文献。

B5判・函入・1016頁・本体450000円  
(早期購入価格 本体420000円)

## ■日本キリスト教団出版局

越前喜六著

日常において出会う喜びやぬくもり、思いがけず直面する悲しみや苦しみ……。そうした一つひとつの事柄の意味、そして「復活」や「愛」といったキリスト教のキーワードについて、長年人々を導いてきた越前神父が語るエッセイ集。プレゼントに最適な一冊。

四六判・112頁・本体10000円

## INFORMATION

### 近刊情報

# 福音と世界

2020年07月号

特集 コミュニズムの現在性

寄稿者 市川崇、山本泰三、清水知子

小田原琳、小林卓也、入江公康

好評連載 「Say a Little Prayer」 開かれる世界（栗田隆子）、「いまを生きていることは」（金退野）、「パゴンの路上」 Conjecture of a Son of a Preacher Man（マニエール・ヤン）、くまざんのシネマめぐり（好井裕明）、教文学入門（土井健司）、新約釈義 第一 テモテ書（注学）ほか

A5判・本体600円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

## 編集室から

SNSを使う方はご存知かもしれないが、キリスト者の間で二つの〇〇チャレンジが流行っている。一つは「プッシュアップチャレンジ」、いわゆる腕立て伏せをする動画を投稿するもの。もう一つは読

書文化に貢献するための「7days Book Cover Challenge」だ。その名の通り七日間、好きな本を一冊ずつ紹介するもの。投稿の際、友達をチャレンジに招待する一見チェーンメールのような仕組みだが、牧師や、同業の編集者にも広がり投稿者の思想の構成物を伺い知れた気にもなる。

SNSに流れてくる本の表紙を眺めながら、ふと、コロナ収束後の世界に響くのはどんなことばだろうかと考えた。ウィルスは無差別に人を襲うが、普段の健康・衛生状

## 予告

本のひろば

2020年8月号

本・批評と紹介

明治学院テキスト作成委員会編『ヤバいぜ！聖書』、越川弘英著『今、礼拝を考える「新装増補版」』、M・テイリー、W・ツヴィッゲル著『古代イスラエル宗教史』、S・ハワーワス著『宇宙の筋目に沿って』、久野 牧著『JKに語る！ 新約聖書の女性たち』他

態や、外出自粛できる人と、できない人の経済格差を明るみにし、飲食業界を中心に失職、廃業に追い込まれる人を生んだ。一方で自粛警察の登場や、感染者への嫌がらせ、給付金の件で一部から聞こえた「外国人や生活保護受給者に渡すな」という声は、人間の自己中心性と、強者こそ優先されるべきという、競争原理の影響も垣間見せた。震災後に叫ばれた「絆」ということばはどこにいったのか。

絆という仮面をかぶった自己責任論がはびこる競争社会で、ますます必要になってくるのは、いのちの価値を再発見させることばではないだろうかと思う。より強者になり、さらに満足のいく人生を手に入れたものことばではなく、いのちの意味を見出し、互いを喜ぶためのことば。あなたのいのちに意味がある。ポストコロナの社会で、そう互いに関わることばを探していきたい。(桑島)

『信徒の友』記事に書き下ろしを加えて書籍化、信仰生活(再)入門シリーズ



2020年6月25日刊行予定

## 信仰生活ガイド 《全5巻》 十戒 吉岡光人 編 **第2回 配本**

「十戒」はなぜ教会の信仰として今も唱え続けられているのか。コロナ禍に至るまでの現代の問題に目を向けつつ、その意義を紐解く。現代を生きるキリスト者にとっての十戒を知る決定版！ ◆四六判 並製・128頁・1,430円

刊  
行  
案  
内  
シ  
リ  
ー  
ズ

『主の祈り』1,430円

『使徒信条』

7月刊行予定

『信じる生き方』

10月刊行予定

『教会をつくる』

2021年1月刊行予定

89歳の神父が豊富な経験を交えて語る、心に響くエッセイ集

# 必ず道は 開かれる

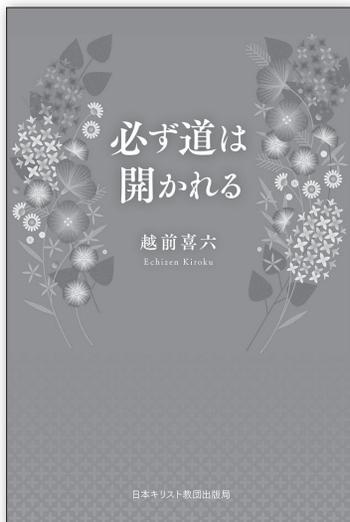
越前喜六  
上智大学名誉教授

日常における喜びやぬくもり、思いがけず直面する悲しみや苦しき。そうした事柄の意味、「復活」や「愛」といったキリスト教の言葉について、長年人々を導いてきた越前神父が語る。贈り物に最適。◆四六判 並製・112頁・1,100円

本書をおすすめします

豊かな人生経験から紡ぎ出された珠玉のエッセイ集。この時代を生き抜くためのヒントが、必ず見つかります。

イエズス会司祭 片柳弘史



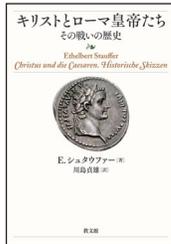
2020年6月19日刊行予定

# キリストとローマ皇帝たち

その戦いの歴史

E・シユタウファー 著 川島貞雄 訳

「来たるべき方」は、皇帝か？ キリストか？



文献資料、碑文、特に古銭に関する該博な知識を駆使しながら、ユリウス・カエサルからコンスタンティヌス帝にいたるローマ史を素描。人格化された皇帝の崇拜を強調する全体主義的権力に対して命を賭して抵抗し、殉教した多くのキリスト者の勝利の告白を書き記した古典的名著。ナチス全体主義に対する厳しい批判と抵抗の書としても知られる。

● A5判・上製・368頁・本体4,600円

近刊予告

2020年夏  
刊行予定

## 日本キリスト教歴史人名事典

最新の研究成果や新事実を反映した約5150人のキリスト教関係者を網羅。日本キリスト教史研究の里程碑ともいえるべき必須の基礎文献。

● B5判・函入・1016頁・本体45,000円（早期購入価格 本体42,000円）

日本キリスト教歴史大事典編集委員会 編  
鈴木範久 監修

好評既刊

## 原始キリスト教の背景としてのローマ帝国

S・ペンコ 編著 新田一郎 訳



ローマ帝国の発展とともに成長した初期キリスト教徒集団の実像と、初期ローマ帝国史およびその社会階層、諸宗教、皇帝崇拜、ユダヤ教、迫害と寛容政策、法律、軍隊、財政などを多角的な共同研究によって探る。

● A5判 464頁・本体4,500円

## ローマ史のなかのクリスマス

異教世界とキリスト教 1  
保坂高殿 著



なぜ12月25日がクリスマスになったのか？ 文献のみならず豊富な碑文資料をも駆使しながら、クリスマス成立にまつわる歴史の事情を帝政ローマの文脈の中で検証する。初期キリスト教における民衆の信仰生活に迫る画期的な書。

● 四六判 268頁・本体2,500円

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3561-5549 (出版部直通)《星・図書目録》

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は (e-shop 教文館)

<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可  
二〇二〇年七月一日発行（毎月一回一日発行）  
本のひろば 第七五一号 二〇二〇年七月号

発行所 〒100-0061 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター  
電話 03-3360-6520 振替 0170-512679  
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 ㈱平河工業社  
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話 03-3360-5600

定価七八円（税抜七一円）〒71円  
一年分一三〇〇円（送料共）